

Bruce Sterling

Ideological Freeware -- Distribute At Will

October 14, 1998

Yerba Buena Center for the Arts

San Francisco

ブルース・スターリング

イデオロギーによるフリーウェア はいふ ご ずい 配布は御随意に

1998年10月14日 ねん がつ にち

イェルバ・ブエナ げいじゅつ 芸術センター

サン・フランシスコ

このテキストは、プロジェクト「メカ杉田玄白」すぎたげんぱくによって
提唱ていしょうされた翻訳掲示板システムほんやく けいじばんによって翻訳ほんやくされました。

Copyright (C) 1998 by Bruce Sterling

Copyright (C) 2001 by プロジェクト「メカ杉田玄白」すぎたげんぱく

この著作権表示ほんけんひょうじを残すかぎりにおいて、商業利用しょうぎょうりようを含む複製ふく ふうせい
・再配布さいはいふが自由じゆうに認められるみと。

やあ、みなさん、こんばんは。わざわざ来てくれてありがとう。今夜は、今までやったことのないことをするつもりです。この20年間、それをやるまいやるまいと自分に言い聞かせてきたんです。

今夜、ぼくは予言をします。

予言をしたいなあ、とずっと思っていました。もちろん、予言というものがいかに危険で愚かしいことが、よく分かっています。ぼくたちSF作家にとって、予言することがいかにキャリア上危険な誘惑かも知ってますよ。だって、こうして作家としての地位を確立した自分ってもんがいるわけですよね……抱えている仕事をやって、チェーンストアなんかのワイヤー・ラックに自分の本をいっぱい並べてもらって、インクをぶちまけて、木をバカバカ切り倒して、あの古き良きバカ話量産工場をうまくまわしてきたんです。それなのに、なんかバカなことを口走って、せっかくの地位を台無しにしちゃうんです。「フェビアン運動を起こして、世界中の抑圧された大衆に開けた社会主義をもたらそう！」なんてね。

でも、もう我慢できません。見よ、時まさに来たらんとするが故に、というわけです。ミレニアムは間近に迫っていますし、ぼくは時代の先頭に立っているんだから、ミレニアムの先頭にも立っているんです。今夜は、みなさんに2000年1月を前もって味わってもらいましょう。

ぼくたちはみな、公式には21世紀は2001年からだという

ことをもちろん知っています。ですが、人は頭の中ではそうは思っていないのです。2000年1月の最初の週のどこかで、世界中のジャーナリストが二日酔いから醒めると、何もないテレビの画面だとか新聞紙面に出くわすでしょう。でもこれはY2K問題のせいだけではないのです。新しいアイデアがないからなのです。そこで、編集長はあくびをしながら、腕っこのきの記者に言うのです。「さあてと、20世紀はもう終わったな。次に来るのは何なんだい？」

「……とおっしゃいますと？」

「いやあ、今は新しいミレニアムだろ、だからさ、全く新しい問題とか、新しくオリジナルな発想とか、流行とかトレンドとかの記事が欲しいんだよね。」

「ああ、えーと……。」

すると編集長がいきなり眉をひそめます。「あのさあ、あんた最先端でノリノリのカルチャー最前線だったんじゃないの？　なんかキラキラしたブツ持ってないの？　あの未来的怪異とか、パキパキの未来予測とか、すごい可能性を持った幻想的ビジョンとかいうもんを出してくれるんじゃないの？」

「えっうっ……。」

「で、どうなの。ここんとこずっと、世の中じゃ何が起きてたわけ？」

「うーむ、いやその、おおむね流用とかサンプリングとかですよ。それと支配的パラダイムの転換。そしてそれに伴って、えーと、ディスカールの問い直しですとか。いわゆるポストモダ

ニズムってやつです」

「なあ、たのむよきみー。そんなの去年だよ。前の世紀だよ。前のミ・レ・ニ・ア・ム、わかる？ ポストモダンなんかくそくらえだ。もう終わってるんだよ。消費者はもう新しいミレニアムなんてしるものを持ってるとだよ。それをポストなんとかだなんて言われたくないでしょー。ポストなんたらはぜーんぶやめ。もう関係なし。さ、出てってストリートを駆け回れ。とにかく新しいものを見つけてちょうだい。でなきゃクビよ。」

さてみなさん、もちろんこれはちょっとしたSF的予測です。ですが、ぼくはこの予測を変えるつもりはありません。もしこの予測が2000年第一四半期に実現しなければ、ぼくはサイバークルとかテクノ専門家としての、ご立派な地位を自分で放棄することにします。2000年の最初の何日か、あるいは何週間かは、新機軸を求めて必死になってるジャーナリストから電話が鳴りっぱなしになるでしょう。そうなることは今から目に見えているので、それ用の公式回答をもう完全に準備しています。

この計画にまじめに取り組める時間はあと丸一年です。こいつを、やること一覽の最優先項目に格上げすることにしますね。人々はぼくから、将来がどうなるか聞き出そうとするでしょう。ですからこっちは、自分のネタについて完全にツボを抑えて、まったく危なげないようにしときましょう。この人たちのために、冷静かつ慎重に未来を詳しく説明して差し上げましょう。章や節に分けて、原理原則からサブテキストや政策提言まで丸ごと。わ

が未来学者稼業最高の伝統にしたがって、ぼくはあちこちで間違えるだろうけれど、でも迷いは一切見せません。ぼくはこのニーズに応える必要性を深く感じているんです。それがぼくの道徳的な義務だと考えています。

これは腹のよじれるほど笑っちゃう行為ではありますが、でもぼくはこれについて心底マジです。というのも、考えてみるにですね、ぼくとしてはマジになるしかないんです。刀の鞘を投げ捨て、黒い旗を掲げて、背水の陣を敷きましょう。2000年という年は、1977年、1989年に続く、現状を変える年になるでしょう。なお、2000年という年は、ぼくが未来予想家として脳をフル回転させる最後の年になります。ぼくは今40代です。2000年からの10年間、何年代という呼び名になるのかは知りませんが、ぼくが何か真実だと確信していて、ぼくには自明だと思えるような、そういうことを口走って、しかもしれが一般大衆にはへんてこに聞こえてまったく説明がつかないように思われる、そんなことを口走れる最後の時期になるんですから。

10年たっても、ぼくはこうした内容の公式のスピーチを作ることができるでしょうし、話す場所も見つかるでしょう。でも、それで誰かぎくりとしたり、はっとしたりするかというと、まったくもって怪しいものです。20年もすると、ぼくがこの話をする、みんな和んだり懐かしんだりするようになるでしょう。つまり、ぼくにはもう予言するのをためらう理由がまったくないので、予言か、さもなくば破滅か、というところなのです。

さあ、みなさん、深呼吸して、落ちついてください。こうしてみなさんを、ここに閉じ込めてしまっているわけですし、まだしばらくのあいだは、ここにいてもらいますよ。これから、ぼくに予見でき、みなさんには見当もつかないようないるんな物事のうちのほんの一部をお見せしようと思います。

それでは、未来。未来についての生産的な考え方についてです。まあもちろん、ぼくはとおい未来のことは予言できません。ぼくは今から100年後の設定で小説を書いて売ることができますし、実際そうしてきたんですがね。だけど2098年の出来事を詳しく語ることはできないんです。予測は不可能ってことですよね。ぼくらがわかってないのは、過去を遡って再現することもできないってことです。歴史はSFの一形式なんです。未来はまだ起こっていない歴史です。歴史というのは、別の時代を評価しようとしているある時代の感性なんですが、その感性が別の時代のことを知るなんてことはできっこないんです。

ですが、希望はあります。歴史を知る人は、それを再現する人々を観察できるからなのです。未来が歴史であることさえ理解できれば、現在は予言できるのです。まず今の状況を歴史的な視点で分析すること、これが未来がどういうものかを知る第一歩なのです。なぜなら、今を理解すれば、未来を追跡できます。ぎりぎりまで未来に忍び寄ることも可能になるのです。未来は今ここに隠れています。その芽はあちこちに出ています。未来はもうここにあるのですが、ただ十分行き渡っていないだけなのです。

歴史は繰り返しません。そうではなくて韻を踏むんです。人は人に、困り事は困り事という具合に。もしみなさんが、目の前にある証拠を寄り目で見つめて無視するなら、ある歴史的事象に良く似たものを作ることだってできます。ですが、ぼくはこの場に議論の余地のない証明を作るつもりです。冗談にしたり、ただ言いふらすだけにはしません。ぼくはみなさんに、今の歴史的状況である「世紀末、ポストモダニズム、新世界秩序、1990年代」という事象は、100年前と比較すればとてもよく理解できることを証明します。前の世紀末、それはすなわちベルエポック、1890年から第一次世界大戦までの期間のことです。

汝ら、かくなる多種多様な兆しをば、しかと聞けい。我が左手にあるは過去にして、右手には現在。

パックス・ブリタニカ--パックス・アメリカナ
反吐の出るような小競り合いの絶えない世界平和--反吐の出るような小競り合いの絶えない世界平和
貴族階級と無産階級との総体的な階級分化--超大金持ちとその他大勢との総収入の不釣り合い
議会議をまとめ買いする産業による金ピカ時代の腐敗--

ぎかい まとめが せいじ かつどう いいん かい^{*1} による きんぴか じだいの
腐敗

せきゆ てつどう かぶしき てつこう しんこうなりきん にたい
石油、鉄道、株式、鉄鋼などにおける新興成金--それに対
しては、きよだいぎんこう ソフトやメディアの大立者、おあだてものかわせとうきか
為替投機家

まんまる ばくだん おそ ばくだん
まんまる爆弾をもった恐ろしいアナーキスト--爆弾トラ
ックに乗った怖いテロリスト

でもほんとはもうちょっと複雑です。ロシアが復活した
んです。20 世紀の大半はロシアがありませんでした。ぼくは最近
二度ロシアへ行く機会があったんですが、みなさんも行ってみた
らわかりますよ。1914 年より前の時代がまるで生きづいているん
です。亡くなった皇帝とその家族は文字通り発掘され、ロシア
せいきょうかいしき そうしき いとな ていせい じだい けんちくようしき だいだいてき
正教会式のお葬式が営まれました。帝制時代の建築様式が大々的
に復活していて、ソビエト時代に建てられたものより新しく感じ
られるのです。ロシアの芸術家は、ディアギレフ^{*2} やマヤコフス

^{*1} せいじ かつどう いいん かい : Political Action Committee のこと。略称 PAC。企業だの組合

じぶん りえき こうほしや せいじしきん ちょうたつ けんきん
が自分たちに利益をもたらしてくれそうな候補者の政治資金を調達し献金する
ために結成する団体である。

^{*2} ディアギレフ(Diaghilev): きぞく こ ちち いさん う あと げいじゆつ
貴族の子として生まれ、父の遺産を受けた後に芸術
への感心をしめし、さまざまな活動を始める。バレエ=リュス(1909 年にディアギ
レフが組織したロシア人によるバレエ団)の主催者であり、芸術運動家。

キー^{*1} や新古典派主義の芸術に回帰しています。もしロシアが、
1918 年から 1989 年までの共産主義との関係を否定すれば、彼らに
とって、the Belle Epoque (美しき時代) 以外の戻場所は無いでしょう。その時代
こそ、ロシア人がロシア人だった最後の時代なんです。その時代
こそ、ぼくたちが話している超大国であり、地球上の大陸で最
も大きい領域を持ち、アトランティスのごとくに 1914 年の姿そ
のままに浮かび上がった超大国なのです。

いまはロシアにとっては不幸な時代です。へまばかりし
ています。脳にダメージを受けたフラッシュバック状態ですから
しょうがないです。でも、げんじつ ちよくし
現実を直視しましょうよ。あなた達は
ロシア人で、その生き様が苦しみまくっているんだってことをね。
the Belle Epoque (美しき時代) もじどお 美しい
ベルエポックはロシアにとっては文字通りのベルではなかった
のです。振り返ってみればけっこう良かったなと思える時代のよ
うです。ですが、ベルエポックとはたいてい振り返ってみると素晴
しい時代だったと思えるものなのです。その時代が美しいなんて
というのは、たいがいはおも みにく けつまつ むか
大概はあんな醜い結末を迎えたためなんです。

the Belle Epoque (美しき時代) じだい ひとびと うつく じだい
ベルエポックの時代には、人々は美しい時代だなあと
は思ってませんでした。むしろ、ぴりぴりしていて混乱した時代

^{*1} マヤコフスキー(Mayakovsky): しじん みらいしゆぎし
ロシアの詩人。その未来主義詩はアニメーションの活動とも共通点があり、政治的マニフェストをアニメ化しようともして
いた。

だと思っていました。フロイトの理論がちょうど世界を覆い始めていました。みんなは墮落とかつむじ曲がりとか神経衰弱とかいう言葉をたくさん口にしていました。今では「神経衰弱」という症状はなくなってしまうました。というのも、今の人は「神経衰弱」になることができないのです。100年前は、この精神症で死ぬほど苦しんでたんですが、今は単に存在しないのです。すばらしいことではありませんか？ すばらしい歴史なんですよ、本当なら。ぼくは何か神経衰弱の類似物があると、にらんでいるのですがね。おそらく神経衰弱の現代版は、アーサー・クローカーのいう「痙攣」じゃないかと思えます。「痙攣」とは、全般的に興奮したかと思うと吐き気がするほど落ち込んだじゃうのを激しく繰り返す 1990 年代的な状態です。あてもないまま時速 100 万マイル [160 万キロ] で道路を飛ばしているような苦しい感覚なんです。

歴史的にベルエポックの見た目を決定付けたのは、ア

ーツ&クラフト運動^{*1}とその派生物、つまり、ミッション様式、ユーゲントシュティル^{*2}、アールヌーヴォー、ウィーン分離派なんです。アーツ&クラフトは、いますごく人気があります。出てきたときより支持されてます。当時はオルタナティブ運動、社会主義左派の極端なものと思われていたんです。フランク・ロイド・ライト 当時はむちゃくちゃなやつで、毀誉褒貶の激しいつまはじき者でしたが、今はすごく人気で、深いリスペクトを捧げられてます。特に、ベル・エポックにおける、プレーリーハウス期のものが大人気です。アーツ&クラフトとかミッション様式とか

*1 アーツ&クラフト運動：イギリスの美術工芸家ウィリアム・モリスにより始められた運動。機械によって大量生産される低質な製品を否定し、中世以来の手工芸技術を擁護した。1861年モリスは建築家やラファエル前派の画家らとともに、モリス・マーシャル・フォークナー商会を設立。建築から家具、絵画、スタンドグラス、壁紙に至る広範なデザイン活動を行なった。自然から抽出されたパターンによるデザインや、総合芸術的な姿勢など、後のアール・ヌーヴォーやドイツ工作連盟などに影響を残した。

*2 ユーゲントシュティル (Jugendstil)：1870年頃から世紀末に向けてドイツ、オーストリアを中心に広がった。アール・ヌーヴォーのドイツでの展開だが、アーツ・アンド・クラフツ運動とも重なりあう。1896年にミュンヘンで創刊された雑誌『ユーゲント』にちなんだもの。この雑誌はデザインの専門誌ではなかったが、ドイツのアール・ヌーヴォーの発表の場となった。

は、1990年代の文化を創っている人たち、そんなものを支持するとはまったく予想もしない人たちにまですごい支持を集めています。たとえばカート・コバーン^{*1}の未亡人コートニー・ラブ^{*2}は、ステージ上ではあの幼女娼婦じみたヴェルサーチ衣装をつけて、それに見合った暴れ回り方をしますが、帰る家はアーツ・アンド・クラフツ様式です。闇の愛人エルヴァイラ^{*3}は、有名なアーツ・アンド・クラフツ様式の家を持っています。ウィリアム・ギブスン 正しくはウィリアム・ギブスン博士、ですね、かれはデザインの名誉博士号をもらいましたから はヴァンクーヴァーに1920年代のアーツ・アンド・クラフツ様式の家を持っています。かれはかれはそこのポーチに出て、アディロンダックの椅子にすわって兵器マニュアルを読むのが好きなんです。ゴス・サブカルチ

^{*1} カート・コバーン (Kurt Cobain) : 90年代 初頭にアメリカで起こったグランジ・ムーブメントの 代表的 バンド、ニルヴァーナのヴォーカリスト&メイン・ソングライター。94年 ライフル 銃 で自殺をとげた。

^{*2} コートニー・ラブ (Courtney Love) : HOLEのヴォーカリストであり、女優であり、亡きカート・コバーンの妻であり、彼との間に生まれたフランシス・ビーンというおんなのこ ははおや 女の子の 母親 である。

^{*3} エルヴァイラ。ホラー映画を 紹介 するテレビ 番組 のホステス。www.elvira.com (本人のサイト)

ヤー^{*1}はそこらじゅうにあって、とつても1990年代的ですが、同時にまたきわめて1890年代的で、まるでオーブリー・ビアズレー、とても退廃的で中性的で、イエロー・ブック^{*2} そのまんま、きわめてアール・ヌーヴォーです。

アール・ヌーヴォーはヨーロッパの工芸デザインで、ヨーロッパがまだちゃんと機能していたころまで 遡 るんですね。ユーゲントシュティールとアール・ヌーヴォーは、ウィーン、パリ、ブリュッセル、ミュンヘン、グラスゴウのデザイン工房から現れてきたんです。20世紀の大半は、ヨーロッパは不具者でした。そこにあるのは、塹壕で死にいくヨーロッパ、大恐慌のヨーロッパ、ナチのホロコーストのヨーロッパ、二つに分裂し核弾頭に覆われたヨーロッパで、光明を掲げる大陸というイメージはヨーロッパからは去ってしまったんです。それが、1990年代後半にヨーロッパが復活したんです。信じられないことに、「一つの」ドイツまであるのです。ずっと昔に遡って、「一つの」ドイツがあった歴史時代をさがしても、ほとんど見つかりません。無傷でしかも平和な「一つの」ドイツ - - それはまるで前代未聞のことなん

^{*1} Goth : マリリン・マンソンとか、あるいは日本ではラルクとか黒夢とかのファンのこ がしてるみたいな、顔白塗り で黒のぞろっとした服を着てる、ああいう 退廃 不健康ファッションのこと。

^{*2} 当時の雑誌の名前。

です。

the Belle Epoque (美しき時代) ベルエポックはとても技術が進歩した時代でした。アール・ヌーヴォーが新芸術であった理由の一つは、新しい素材、アルミとかガラス、変てこで目新しい形の金属細工を使ったからなんです。無線、むしろ「無線電信」と言った方がいいかもしれませんが、それがメディアだと理解されるにつれて、その重要性を誰も見過ごすことはできなくなりました。ぼくたちは今ではほとんど無意味な用語をまだ使っています。 - - たとえば「無線ケーブル」なんていう代物があるんですよ。ちょっと付け加えると、無線と衛星接続をどうしたわけか未だに電話と呼んでるんですね。

メリエス^{*1}の初期の映画は、基本的にカメラの前に設えたステージ・マジックでした。まさに特殊効果満載の映画でした。ぼくたちも、特殊効果をふんだんに使った映画を見ています。言うまでもないでしょうが、タイタニック号が進水したのはベルエポックのころです。ぼくたちも『タイタニック』を持っています。特殊効果を駆使した、仮想のタイタニック号です。最初のものは、大英帝国が所有する最大級の船でした。二番目のものは、アメリカ帝国の娯楽産業が所有する最大級の船なのです。タイタニック号が事故に遭うことなく40年間航海して稼げたとしても、キャ

メロン監督の映画『タイタニック』が稼いだ売上は、その10倍を上回るでしょう。このタイタニック映画が世界中で認められ歓迎されたのももったもなことです。この映画はベル・エポック時代のことを描いていますが、一方ではまた全くぼくたちの時代についての映画でもあるんです。

こうやって類似点を一晩中あげ続けるとかだつてできるんですけど、それで説得力が増すわけでもないですね。歴史的な類似性というやつについて眉唾だと思ってる人なら、類似していない事柄だつて列挙できるでしょう。たとえばドイツとイギリスは、いますさまじい軍拡競争はしていません。アフリカの植民地化なんて、ぼくたちは何の興味もない。そんなことをしてほども暇じゃない。いまは、サラエボで何人射殺されようと、みんなすさまじく無関心です。

でも、こういう違いだつていろんなことを明らかにしてくれます。違いがわかれば、そこを手がかりにできます。違いが浮き彫りになって、把握しやすくなるんです。

たとえば、the Belle Epoque (美しき時代) ぶんがかり養成された人文学の知識人という、教育を受け、はっきり区別された、特権的な階級があり、その知識人たちは自覚的に芸術や思想に取り組んでいました。ぼくたちには、それとは全

*1 メリエス (Melies): トリック映画・劇映画の創始者。

ちが ぶんか さんぎょう ぶんか さんぎょう げいじゆつ
く違ったもの、つまり文化 産業^{*1} があるんです。文化 産業 は芸術
しそウ あつか ぶんか さんぎょう
や思想を扱いません。それが扱うのはイメージや情報です。
ぶんか さんぎょう ほんらい そんざい りゆウ しゆみ
文化 産業 の本来の存在理由は、インスピレーションとか趣味とか
せんれん うりもの してぎざいさん
洗練とかではなくて、売り物になる知的財産なんです。

ぼくたちは文化 産業 があることに慣れていませんし、そ
のことに深く考えたことはありません。ですが、文化 産業
ぶんか かんが ぶんか さんぎょう
は明らかに新しい現象です。未来学者にはとてもエキサイティ
あき あたら げんじゆウ みらい がくしゃ
ングな見通しなんです。文化の発展を後から説明するのはとって
みとお ぶんか はつてん あと せつめい
も難しいです。なぜなら、全世界のあらゆる学者、評論家、芸術家
むずか ぜん せかい がくしゃ ひようろん か げいじゆつか
を出し抜き、凌駕していると宣言するようなものなんですからね。
だしぬ りようが せんげん
ですが、文化 産業 の裏をかくことは別問題です。誰だってビジネス
ぶんか さんぎょう うら べつもんだい だれ
スマンを出し抜くことはできるんです。文化 産業 には、ビジネス
だしぬ ぶんか さんぎょう
スマンを出し抜けると言いながら生計を立てている人は大勢います。
みらい しこウ だんけつ ひとびと
未来を志向するものが団結したんです。ぼくはそういった人々を
し しゆわん し かんがえかた しょうち
たくさん知ってますし、その手腕も知ってますし、考え方も承知

*1 カルチャー・インダストリー (文化 産業) (Culture Industry): 「フランクフルト
がくは だいひようてき てつがくしゃ ねんだい
学派」の代表的 哲学者、M・ホルクハイマーと T・アドルノが 1930 年代に
ていしやう がいねん ご げんご いと ほんらい たいきよく
提唱した概念で、ドイツ語の原語は kulturindustrie。その意図は、本来 対極に
いち いち ぶんか さんぎょう がいねん
位置するものと位置づけられてきた「文化」と「産業」という 2 つの概念が、
しほん しゆぎ しょうひしゃかい きようゆウ みっせつ かんけい あき
資本主義の消費社会にあって 共有している密接な関係を明らかにすること
にある。

ぶんか かんがえかた ただ すじみち
しています。文化についてそういう考え方をすれば、正しい筋道
がわかります。すごくいい気分です。

じっさい してん み
実際、いったんその視点を身につけたら、すぐにぼくの
しよくぎようてき かんてん たいけん めのまえ しんじつ
職業 的な観点でのブレイクスルーを体験しました。目の前に真実
が浮かび上がってきたんです。SF が芸術運動だったのは、1980
ねんだいなか ねんだい だ さくひん
年代半ばまでのことです。1990 年代に出てきたすばらしい SF 作品
は、出版されたものが他のメディアに従属した物になってしま
しゆつばん ほか じゅうぞく もの
っていました。今日、SF の世界で最も商業 的な成功をおさ
きよう せかい もっと しょうぎようてき せいこう おさ
めたのは、動く人形とかそのほかコレクションできる物を消費者に売
うご にんぎよう ぶつ しょうひしゃ う
る際の広告として作られたのです。SF 映画でさえ、サウンドトラ
さい こうこく つく えいが
ックや T シャツ、CD-ROM、その他のおまけの広告になってしま
た こうこく
いました。これこそ、申し分なく文化 産業 と言えるでしょう。
しょうぎようかん ぶんか さんぎょう い
商業 空間をできるかぎり、ところせましとリゾームのように探検
しているんです。

おお ばあい げいじゆつけいしき かくさん と
多くの場合 芸術形式としての SF は、拡散し、捕らえど
ころのない、どこにでもあるものです。でも 産業 としての SF は
さんぎょう
いつも、どんな形にもなるものなんです。ポルノと同じで、SF
かたち おな
はいつも新しいメディアに最初に登場するジャンルのひとつ、
あたらし さいしよ とうじよう
提示したり配布したりする新しい手段を活用する最初のジャンルの
ていじ はいふ あたら しゆだん かつよう さいしよ
のひとつです。多くの場合、SF は実はメディアについてのもので、
おお ばあい じつ
メディアをロマン化し、促進しているんです。例えば、ヒューゴ

ー・ガーンズバック^{*1}の最初のSF雑誌は、本当は彼のラジオでの通信販売を空想的にあつかったものでした。SFはここでは概念的には潤滑油のような役割を果たしているのです。

現代的な好例のひとつとして、エレクトロニック・アーツがマルチプレイヤー対応で売り出したULTIMAというインターネット・エンターテイメントがあります。ULTIMAはジャンルのにはファンタジー・アドベンチャーに収まりますが、それでいて、そうとばかりはいえません。そこで売られているのは、コンピュータ・ネットワークで繋がる人々のグループ経験であり、かれらはその模擬的なファンタジー世界の中にいる人々とグループを組む真似事をするわけです。剣を振りまわしたりトロールと戯れたりドラゴンに焼かれたりとなつても忙しいところなのですが、本当のところ、そうした経験はまったく紙にも等しく薄いに決まっています、だって燐光なのですもの。ドット級の薄さです。このゲームでの本物のドラマは、あなた自身を、プレイヤーキャラというあなたが操るキャラクターを殺したがる連中から守るときに、生まれます。ULTIMAに心底没頭しているのは、他の誰

*1 ヒューゴー ガーンズバック(Hugo Gernsback)：リュクセンブルグの電気技師。1926年、彼が編集した世界最初のSF雑誌「アメーシング・ストーリーズ」発刊。科学的厳密主義、SFはひとつの「大衆文学」として受け入れられ始めるきっかけとなった。

でもなく、プレイヤーキラー、つまりは殺し屋どもなのです。

ぼくはいつもジャンル出版の仕組みは歴史的に見て偶然のできごとだってことに気づいていました。SFの出版と流通が自然発生的なもので、永遠に不滅だなんて幻想はいただいたことすらありません。その反対に、ぼくは痛々しいほどにコミュニケーション手段のはかなさに気づいていました。この3年というもの、ぼくはいやになるくらいDead Media Projectとよばれている研究に取り組んできたんですから。

この3年間のインターネット上での大学入学許可のおかげで、ぼくは今や絶滅したメディアについては世界でも一流の権威で、絶滅したメディアについての本を1冊書こうと思ってます。もう一冊SFを仕上げたら、次に出版するのはこの本です。ぼくは小説家のベレー帽をぬいで、先のとがったスパンコールのテクノ導師の帽子をかぶるつもりなんです。

絶滅したメディアについての本は二部構成です。第一部は、一覽で、絶滅したテクノロジーの列挙です。信号鏡、空中文字、アップル社のNewton^{*1}、その他同じような遺物の列挙です。第二部では、より深い問題を取り扱います。絶滅したメディアの単

*1 アップル社のNewton：MacintoshやiMacでおなじみのApple社がむかしNewtonという電子手帳を販売していたが、1998年に開発を中止。

<http://www.apple.com/pr/library/1998/feb/27newton.html>

なる一覽も、とても興味深いものになるだろうということをぼくはこれっぽっちも疑いません。占領下の日本での塩・コショウ入れみたいな、特定の分野での収集本のようなものになることでしょう。しかしフィールドワークだけでは、全ての答えにはなりません。煉瓦を積み重ねれば、家になるわけじゃないように、事実を集めれば、学問になるわけじゃないんです。絶滅したメディアが純粹に技術上の問題だという事実にもかかわらず、ぼくは実は科学的な問題を問うてるわけではないんです。ぼくがメディアについて答えたい質問は、基本的には、文学的な、文化上の、感受性の質問なんです。「どういう意味ですか？ とか、どう思いますか？」というのはエンジニアリングの質問ではありません。どれだけ、どれくらいといった定量的な質問でもありません。どういう意味で、どうだと思えますか？

もしぼくがこれらの質問にうまく答えられたら、みんなのメディアに対する態度もかえられたかも、なんて思ったものでした。実際には、ぼくはたぶんみんなのテクノロジーと社会の相互関係についてもっている考え方をかえられるでしょう。でも本当はこれは一般向けのサイエンスライターやましてや SF 作家が努力してやるようなことじゃないんでしょう。基本的には、芸術家やデザイナーや建築家、導師や芸術運動に期待するようなことで、

ル・コルビュジェ^{*1}、アンドレ・ブルトン^{*2}、アレキサンダー・ロトチェンコ^{*3}から聞きたいと思うようなことなのです。

実際にはこれは魅力的な見とおしです。というのはぼくは美術理論も本当に好きで、デザイナーは格別ひいきにしているからです。デザイナーの中でも、特に工業デザイナーは社会において、すばらしい SF 作家が語るのと同じくらい、かわった立場で変則的に語る事ができる数少ない社会階級の一つなのです。デザイナーから得られる思想や表現の範囲、デザイナーのプロとしてのレトリックをそのまま延長していくことは、ぼくにとってはきわめてスリルがあることです。グラフィックアーティストや画家やそのような人達は、少し極端な傾向があるように思います。カドニウム・イエローを塗りたくって、あいまいにしかものが言えないというような感じでしょうか。しかしデザイナーには、高い建築家から得られる、医者が患者に語りかけるような雄弁さが

*1 ル・コルビュジェ (Le Corbusier): スイス生まれの建築家であり、都市計画家です。現代建築の父とされています。

*2 アンドレ・ブレトン (Andre Breton): フランスの詩人、作家。超現実主義(シュルレアリスム)の理論を創造し、20代にして全世界の文壇および芸術分野の注目をあつめた。

*3 アレクサンドル・ロドチェンコ (Alexander Rodchenko): 「未完の芸術革命」と言われる、いわゆるロシア・アバンギャルドにくくられる写真家。

あるように思うのです。

たとえばデザイナー会議に行きます。えーと、やかん展示会かなんかにしましょう。そこでの会話はこんな感じです。

「いやあ、まあその、きみの作ったそのやかんって結構いいじゃーん」

「ええ、もう空間とボリュームの統御がすべてですから。わたくしきょうりよくしょうちようきもきかきたいかいはずは強力な象徴的インパクトを持った幾何形態を開発しようとしているのです」

「なるほどね、ふーん。」そう言ってあなたは次のデザイナーのところにいきます。「ほう、その戸棚にすばらしいやかんがあるね。」

「そうですね。ぼくはね、これまでラッカー塗装のペニヤが持つ独特のアフォーダンス^{*1}を誰もやかんに活用してこなかったことに気がついたわけよ」

さらに次のデザイナーのところで「ほおー、あなたのやかんも思わず絶賛しちゃうくらいのもんだね」と言うと、

^{*1} アフォーダンス：ジェームス・ギブソンというアメリカの知覚心理学者が1960年代に立てた理論で、アフォーダンスとはギブソンの造語。1980年代に入って、人工知能やマンマシン・インタフェイスを研究している認知心理学者たちに注目されるようになった。アフォーダンスは、情報は人間の内部にあるのではなく、人間の周囲にあると考える理論。

「ええ」(お目目パチパチ)「真の美というものは、内在的なきのうてきこうようたいたいな機能的効用に対するオブジェのオブジェクト的屈服から湧き起こるものですよ」

日本人やフィンランド人なんかと話してるときがさいこーです。やかんが国民性の本質を表してるなんて言うんですから。けっさくなのは、それが全部やかんのことだってことです。やかんの大部分は実際に使われてるんです。人は水をわかつて注ぐ家庭用品にさえ、人生の審美的な経験を実際ににつめこめるものなのです。かつて、ヘンリー・ペトロスキ^{*1}は本一冊まるまるかけて鉛筆を、半分近くをかけてペーパークリップを論じたものでした。

でもこれを学ぶのがどんなに楽しくても、むずがゆくて満足できないことがあるんですよ。ぼくの問題は、ぼくがデザイナーじゃなくて、実践できないってことです。ぼくは、ときどき想像だけで仕組みをデザインするんですが、本当に興味があるのは、テクノロジーと文化が融合し相互に作用することなんです。テクノロジーが文化にどんな影響を及ぼすのか、あるいはその逆はどうなのか、それがぼくの芸術家としてのテーマです。

それでこう思いついたわけです。ぼくが本当に歴史がわ

^{*1} ヘンリー・ペトロスキ (Henry Petroski): 『鉛筆と人間』や『フォークの歯はなぜ四本になったのか』で知られる技術史家。

かっていて、本当に文化産業のなかで生きて仕事をしているなら、デザイン運動をデザインできるんじゃないかとね。

ここで騒々しくがたがた、どさっとあるべきものがあるべき場所におさまりました。ぼくには手段も動機も機会もあるんです。2000年という年以上にデザイン運動をはじめのにはばっちりなときはないでしょうよ。ぼくの経歴はまっさらでしょうし、いやその時までにはまっさらにしましょう。今の自分のインターネットのメーリングリストなんてすっぱりやめてしまって、別のメーリングリストなんて簡単にはじめられるでしょう。面白いのは、ぼくが実際にデザイン運動をデザインできるって信じてることなんです。ぼくは物をデザインできるなんて思ってません。でも文化をデザインするってことには、めちゃくちゃそそられます。これは、そもそものはじめからデザインしてきた芸術運動で21世紀をはじめられるチャンスなんです。

この人、冗談なの、それともマジ？ と人は尋ねるでしょう。そもそもなぜそんなことを尋ねるのでしょうか。いまのが概念的な構築のやり方として、できが悪いからです。ぼくたちは、文化産業の工業デザインをするための用語というのを持っていないんです。ぼくたちの原始的な視点からすると、これは一種の予言行為として考えるといちばんわかりやすいでしょう。

今からあなた方に、21世紀のデザインの潮流が、前にあった芸術運動を技術的に大きく改善した物になるということをも説明いたします。たくさんの、個性的かつ革新的な特徴を持

つ世界をご案内いたしましょう。

その1。たぶん一番重要なことですが、この運動には有効期限があらかじめ組み込まれています。従来の芸術運動の問題は、自分たちが永続的な文化的真理を発見したという何の検討も加えられていない想定で、したがって自分たちは永久に続くものだと想定していたことです。実際問題として、かれらがどれほど真理を発見したにしても、運動というのは決して長続きしないものです。その運動が勢いを失うと、そこから身を引き離すのは苦痛なくらい大変です。いまだに、悲しげなジャーナリストどもから電話がかかってきて、サイバーパンクはもう死にましたか、ときかれます。そして死んでいないなら、なぜ死んでいないのか、ですと。最近では、ぼくはポストサイバーパンクを名乗る連中の相手までさせられるようになっています。この新しい試みでは、ことの初めからこうした問題を排除する設計にしておくんです。

その2。これもまた極めて重要。ぼくの新しい芸術運動は実現可能なものです。一つのデザイン上のチャレンジに焦点をしばって労力を注入するつもりです。ぼくの芸術運動は温室効果を扱います。ぼくたちの活動と関心を温室効果ガスへと集中するんです。なぜって？ この夏マレーシアやインドネシアやメキシコでは、至るところで火事がおきました、それが理由です。この夏アジアではヨーロッパに匹敵する面積で洪水がおきていました。その中には、15の国、3億の人々が含まれています。

ぼくにはサンフランシスコに住んでいる人に、この夏のエルニーニョ現象について説明しなければならないとは思えません。もちろん多くの人々が、このいわゆる異常気象の証拠では納得しないと主張しています。ただそれは、かれらが少しでもお金を失いたくない、先のことは何一つ考えられない反社会的なばかものだからなんです。

しかし 21 世紀へと少しでも目を向ける人は、この最悪の夏の後の夏や、その夏の後の夏に、いたく興味をいまくことでしょう。ぼくたちの社会は化石燃料でなりたっています。ぼくたちは資源を乱用し、二酸化炭素の問題をかかえています。現在には抽象的な問題に思えるかもしれませんが、避難キャンプや黄塵やそのようなものがいったん始まれば、もっともっと切実なものとなるでしょう。その点においては、温室効果について語らない人は、20 世紀型で時代遅れにみえることでしょう。

今挙げたことから、ぼくたちの運動をいつまでにやるべきか、おのずと浮かび上がってきます。その期限は 2012 年、京都議定書^{*1}によって、CO2 排出量を大幅に削減するように定められ

*1 京都議定書：1997 年 12 月に京都市で開かれた気候変動枠組み条約

ていやくこくかいぎ ちきゅうおんだんかぼうしきょうとかいぎ さいたく こうしきほうこく ねん かの締約国会議（地球温暖化防止京都会議）で採択された公式報告。2008 年か

ら 2012 年の先進 38 カ国と EU（欧州連合）の温室効果ガスの排出量を定めている。

たその年です。ですから、ぼくたちに残された時間は、2012 年までか、環境大崩壊が起こるまでということになります。別に、環境大崩壊が起こったって、自然環境をどうデザインするかという問題を考える意味がなくなるというわけではありません。単に、芸術っぽいアヴァンギャルドの出る幕はもうない、と言っているわけです。CO2 量は正しくコントロールされるでしょう。ただ、たぶんその時には軍隊によってコントロールされるか、少なくとも銃剣をつきつけられてコントロールされるのはまちがいないことです。

文句なしに劣化した気象だからといって、この世の終わりではありません。ハルマゲドンとか、人類絶滅とかにもならないどころか、その半分も華々しいことにはなりません。でも、それはぼくたちのベルエポックの決定的な終わりを意味します。基本的には、煙と暑さとべとべとした体にまとわりつく汚染がやってくるということです。するとぼくたちをとりまく文化的な状況も完全に変わります。人生についてのぼくたちの知識や、ぼくたちが大事だと思っているものすべてが、いきなり時代遅れになります。それは消滅した、美しい無垢な時代に属するものとなるでしょう。つまり、今世紀初期のベルエポックにとってのせかいたいせん そうとう 世界大戦に相当するものが、ぼくたちにとっての地球温暖化ということになるわけです。

そしてなぜこれが審美的な問題になるのでしょうか？ え、自分のゴミ箱で半分死にかけるまで日に焼けて汗をかくのは、

まったくこの味が分かることだから、つまり、そういうことです。
地球全体をうだるようにしてあぶるために、陳腐にも二酸化炭素
にこだわるのでしょうか。まあ、そんなライフスタイルはだめだ
めですね。全てが間違っていて、審美的にも残念なことです。

ぼくが思うに、地球上の全ての化石燃料を使い果たし
て、気候が落ち着くとか状況がもっともって改善する可能性も
ないとはいえません。あるいは木製に衝突したような彗星の仲間
が地球に衝突してみんなおだぶつかもしれません。ぼく個人とし
ては心を決めています。ぼくはテキサスに住んでいますが、この夏
のダラスは華氏112度(摂氏44.4度)^{*1}もあったんです。ぼくにとっ
てはダラスのそれで決まりです。気づくのに時間がかかればかか
るほど、ぼくには先見の明があったってことになるんです。

*1 ファーレンハイト(華氏)温度: ドイツのファーレンハイト(Fahrenheit, Gabriel
Daniel)[1686 ~ 1736]が、1724年に、塩化アンモニウムを寒剤として得られた当時
の最低温度を0度、人間の体温を96度とし、その間を96等分した温度目盛り
を考案した。なぜ96等分なのかと疑問に思う所だが、12進法を用いて80(12)
等分したものが10進法で96(10)ということだ。

セルシウス(摂氏)温度: スウェーデンのセルシウス(Celsius, Anders)[1701 ~ 1744]
が、1742年に、水の氷点を0度、沸点を100度とし、その間を100等分した
温度目盛りを定めた。その後大気圧の変化で氷点沸点が変わってしまうこと
に気づき、一気圧のもとで測定した値を用いるように改められた。

3番: ぼくたちは真剣だし、急いでもいます。これは審美家
たちの専門の話ではなく、実際に自分たちの文明のデザインをす
る緊急の必要性があるのです。だからぼくたちの議論が、あちら
こちらをさまよったり、手当たり次第に理論をとっかえひっかえ
したり、フレームや転々と話題をかえるような事にならないよう
にしましょう。ぼくたちの議論は、パラダイムの転換についてで
はなく、Co2についてなんですから。

そしてぼくたちには実現可能性があり、完了予定日があ
らかじめ決められていて、焦点もしぼれています.....ほかに何が
必要だっというんです?

4番: ぼくたちは物理的な所在地を持たない。ウィーン
にいたりニューヨークにいたり、パリのセーヌ左岸にいたりする
必要もない。みーんなネットでやります。

5番: 従来の芸術運動の大きな問題は、手当たり次第
に敵を作っちゃうことです。ほとんどの場合、敵は身内から生じ
ます。具体的な嫌悪と軽蔑対象を持たない前衛はすべて、すぐに
分裂して派閥抗争に陥ります。うまくいくグループというのは、
耐え難い連中とはだれかということによって自分たちを定義づけ
ます。

ぼくの芸術運動は、あらかじめ強力で悪意にみちた

脅威となる敵が用意してあります。地球気候連合^{*1}です。こいつらは悪者として完璧です。産業のバックもついてるし、巨大なPR予算もあるし、ワシントンに本部もあって、もうぼくたちが持っていないし、この先も持てないだろうし、うらやましくてたまらないものを備えてるわけです。もっとひどいことに、かれらは気候について発見されたことをごまかし、真実を歪めることで利益が得られるような既得権益を持っています。それに、かれらは科学者の正真性について、激しい個人中傷攻撃を繰り返しています。このやりくちはルイセンコ主義^{*2}です。真剣な知的労働者たちは、すべてこれを軽蔑し、嫌悪しなくてはなりません。

このように、敵は一貫した内部の原則をあたえてくれます。これはどうしても必要なものです。ぼくたちはやむを得ず、デザイン、アート、工学、ネットワーキング、コンピューティング、気候科学といった分野から、いろんな知識をごちゃ混ぜにしています。つまりそれは 20 世紀っぽい、折衷的なやり方なんです。

^{*1} 地球気候連合：Global Climate Coalition のこと。略称 GCC。アメリカ産業界

の強力なロビー団体であり、NGO などの間で評判が悪い。

^{*2} ルイセンコ主義：スターリン時代のソ連における公式遺伝学で、具体的な中身は忘れられた。でも実験データとはあわなかったのにスターリンの認められた公式遺伝学ということだけで続いたし、それに反すると粛正されたんだが、ここでルイセンコ主義を持ち出すのが正しいのかちょっと見当がつかない。

すが、たったひとつしっかりとした素晴らしい基盤があります。事実の一貫性をごちゃごちゃにする大バカ野郎には、ぼくらは絶対に我慢できないってことです。

このことから、GCC はぼくたちにとって完璧なパンチングバッグ^{*1}になります。ぼくたちが彼らに似ていることが、ずいぶん役に立つんです。敵があなたたちとあんまり似ていなかったら、厳しい道のりを進めることはできません。おわかりでしょうが、ぼくたちも敵もともに世界的な気象連合です。それに、きわめて 21 世紀型の組織でもあります。ぼくたちはネット上で、自主的に、調査したり計画したりする集団です。その一方で、敵はワシントンの情報スパイで大企業のためにひどいデマを流しています。ぼくたちはやつらとの共通点をたくさん持っています。例えて言えば、気高いデンキウナギと卑しい吸血ヒルのようなんです。

ぼくたちは、GCC にいる人たちのすべてを暴露します。母親とか服装とかまでおおいにからかってやります。だから、ぼくたちの見方や賛同者の方々、ぼくたちの審美上の主張を何から何まで共有しなきゃいけないなんていう必要はありません。もしあなたが、ウェブ上で GCC に反対するために何か調べ

^{*1} パンチングバッグ：斜め上を見上げて、ズダダン、ズダダンとボクサーが殴っている黒いヤツ。

たいと思うなら、ぼくたちはいつでも大歓迎しますよ。

さてこれまでのことで、ぼくたちが環境保護を志していることは明らかでしょう。ただぼくたちが、その他の見分けがつかないニューエイジの環境保護を主張する人たちに埋もれてしまわないのはどうしてでしょう？ ええ、そこが肝心な点で、それこそぼくたちが6番目にしたもののなのです。ぼくたちは何であれ、霊的なことや神秘的なものは許しません。これが、単純ながら完全にぼくたちに向けられたのろいです。もし Skeptical Inquirer magazine^{*1} に掲載されないなら、ぼくたちはそんなことについては知りたいたとは思いません。霊的な動機や環境保護やピカピカのヒッピーみたいなタイプと闘いたいたとは思いません。クエーカー教徒やアーミッシュ派を攻撃するようなもので、意味ないし、時間の無駄です。そんなものは、他のみんながするように単に落ちついて無視することとしましょう。

7番：ぼくらの活動は、ストリートで認められていません。ぼくらはまったくヒップでも、アンダーグラウンドでも、ポヘミアンでも、アルタネィティブでもないんです。もし誰かに聞かれたら、未来派の会社で製品開発をやってるんだと教えてください。次の点ではぼくを信じてください。ぼくはこのシステムがどうやって動くかはじゅうぶん分かってるんです。そして90年代の終わ

りには、アンダーグラウンドでの本当の価値はサイトで決まるんです。もちろん“お金”なんかじゃありません。その価値は評判で決まるんです。それにアンダーグラウンドでの利子レートや没収される税金はとてつもなく高いんですから。アンダーグラウンドでは製品のサイクルや製品が入手できる期間もばかばかしいほど短いんです。アンダーグラウンドのことなんて忘れちゃってください、たいしたもんじゃないんです。そんなものは若者にでもかえしてあげて、やつらがそこで活動して、息をして、成長するようにしてやりましょう。

ぼくたちの運動はストリートじゃなんの価値もありません。ヤングな運動じゃないことも確かです。ぼくたちは若者には特に興味はないですし、若者をぼくたちの運動に誘っていません。思うに、若者はとっても大変なんです。きっと、彼らが今まで経験したことの無い、とっても大きな苦しみを味わうでしょう。もっとトレンドィになれなんていうべきじゃありません。残酷だといってもいいでしょう。若者たちには、海賊版のMP3の音楽とかだぶだぶの古着でも楽しんでもらえればいいんです。30を超えたら、若者のあら探しをするのはやめましょうよ。

というわけで出てくるのが、ユニークな特徴8番。ぼくたちは、はっきりと年寄りに興味があるアヴァンギャルドです。もしこの件で全身罪悪感が身をよじらせなきゃいけない連中がいるとすれば、それは過去60年にわたってでっかいみつももない車を運転し続け、漏れの多い家に住み続けてきた連中なんですから。

*1 Skeptical Inquirer magazine : トンデモに懐疑的な雑誌 <http://www.csicop.org/si/>

さーて、あんたらのやったことのツケが帰ってきましたよ、大馬力自動車さんに決闘クーペさんたち。これがあんたらの、孫への遺産ってわけですか。もしあんたらに、良心のかけらでもあるなら、少しは手を貸して助けてくださいよ。家から出なくてもできることはおろか、車椅子から立たなくてもできることだってたくさんあるんですから。それに、ぼくたちは中位年齢が上がり続けている社会に住む初のアヴァンギャルドですからね。標的となる観客は年寄りなんです。

ユニークな特徴その9。ぼくたちは、警官や兵士を歓迎します。警官も兵士も、ぼくたちの運動の武闘派なんですからね。運動を推進する人が洗練されすぎていて、拳銃をもった人たちがほとんど参加していなかったことが従来^{じゅうらい}の文化運動^{ぶんか うんどう}における問題点^{もんだいてん}だったんです。ぼくたちは、環境問題^{かんきょうもんだい}に関する罪を告発する人たちや、密猟^{みつりょう}に反対する人たち、災害後^{さいがいご}に活動する国家警備隊^{こっか けいびたい}、緊急時に活動する土木技師^{どぼく ぎし}、赤十字^{せきじゅうじ}なんかがとても大好きなんです。テロリズムとか自警団^{じけいだん}なんかは、ぼくたちにとってはばかばかしいものです。彼らは真剣なプレイヤーじゃないんです。いいチャンスをつかまえて、持ってようとするためのアイデアなんか、彼らは持っていないんです。

10番：ぼくたちは未来をみています。ベルエポック運動^{the Belle Epoque (美しき時代) うんどう}の大きな問題の一つは、第一次世界大戦^{だいいちじ せかい たいせん}で何をすればよかったのか^{かんが}考えていなかったことです。もっと分別^{ぶんべつ}をもってしかるべきだった芸術家^{げいじゅつか}たちが、血と栄光^{ち えいこう}ですべてをあきらめ、窮地に陥^{きゅうち おちい}った

のです。彼らは、状況^{じょうきょう}がどれほど悪化^{あつか}しているかを把握^{はあく}したときには、呆然^{ぼうぜん}と羊^{ひつじ}みたいに立ち尽くしたのです。ぼくたちは将来^{しょうらい}も現在^{げんざい}でさえ、決してそんな風^{ふう}にはなりません。ぼくたちには自分たちののろわれた運命^{うんめい}がはっきりと見えています。ぼくたちは、のろわれた運命^{うんめい}の具体的な日々^{ぐたいてき ひび}の細^{こま}かい点^{てん}に関心^{かんしん}を抱^{いだ}いているのです。ぼくたちは、誰も^{だれ}ののろわれた運命^{うんめい}に脅^{おび}えてはいません。ぼくたちは、冷静^{れいせい}な客観^{きゃっかん}性^{せい}をもってそれを見つめて、文書^{ぶんしょ}にしたいと思っています。社会^{おも}がほころびはじめたときに、コンテンツ^{しゃかい}ーションプランやエマージェンシープラン^{じっこう}を実行^{ひと}する人の考え^{かんがえ}方に影響^{えいきょう}を及ぼせればと思っています。

特徴11番。すべての芸術^{げいじゅつ}運動^{うんどう}には、お気に入りのドラッグ^{おお}があることが多いものです。ぼくたちもドラッグには興味^{きょうみ}があります。ぼくたちのお気に入りドラッグ^{おきにい}は、パイアグラです。これは、全世代^{ぜん せだい}を熱狂^{ねつきょう}の渦^{うず}にまきこんだ最初^{さいしよ}の合法的^{ごうほうてき}な娯楽^{ごらく}用^{よう}ドラックです。ぼくたちは、バイオ薬品^{やくひん}や寿命^{じゅみょう}延長^{えんちよう}薬^{やく}に興味^{きょうみ}があります。こうしたドラッグに興味^{きょうみ}があるのは、なによりもこれがまともに設計^{せつけい}された唯一^{ゆいいつ}の意識^{いしき}変革^{へんかく}ドラッグだということです。というのもこれは断言^{だんげん}しますが、寿命^{じゅみょう}が延びると、意識^{いしき}は決定的^{けつていてき}に変化^{へんか}するものだからです。

環境問題^{かんきょうもんだい}を短期的^{たんき てき}なものとして考^{かんが}えてしまうのは問題^{もんだい}です。ぼくたちは、馬鹿^{ばか}をやった人^{ひと}にその長期的^{ちようきてき}な影響^{えいきょう}を完全^{かんぜん}に理解^{りかい}し、個人的^{こじんてき}に罰^{ばつ}を受けられるくらは長生き^{ながい}してほしいのです。これはマイナーな問題^{もんだい}ですが、検討^{けんとう}しなきゃいけないでしょ

う。そしてぼくたちは未来的な原理とシナリオ予測に興味をもつのです。デザイン運動は文化を変わりうるもの、変わりつづけるものとしてとらえるべきでしょう。そして未来を理解する最良の方法は未来を作っちゃうことです。

特徴 12 番：ぼくたちには名前と一貫したスタイルがあります。冷静に設計されていない芸術運動には問題があって、バカな批評家に名前をつけられちゃうということです。このせいで「野獣派」なんて名前に甘んじなきゃいけなくなる。ぼくたちにはすでに名前があります。ぼくたちはヴィリジアン・グリーン¹派、ヴィリジアン運動なんです。

名前の由来は、ぼくたちがグリーンだからです。でもぼくたちのグリーンは、なにか電気っぽい不自然な感じの色合いなんです。ぼくたちのアートムーブメントは、メーリングリスト、キャンペーン、設計チーム、反対調査組織、研究所のようなものでしょう。そしてたぶん、とりわけ、ぼくたちの活動は法王にして皇帝たる人が圧制を行なう小さな封建的神権国家のようなものなんです。ぼくたちは、ロゴを持っています、いや持つつもりです。フォントもあれば印刷の体裁もきまっています。お奨めのヴィリジアン公認の抱き合わせ商品のリスト一式は、Tシャツ、クロムめっきのステッカー、靴下、ソーラーパネル、超音波殺菌機

*1 ヴィリジアン・グリーンの色見本はこちら。 <http://member.nifty.ne.jp/iro/green.htm>

などです。ぼくたちはいろいろ散らかっている場所からがらくたを拾ってきて、組み立てて、それにぼくたちのイデオロギーに賛成するスタンプをつけることに時間をさきたいと考えています。未来はすでにここにあるのです。ひとつの文化的なものとして組み上げられていないだけなのです。

ぼくの組織上の基本方針については以上。すばらしい基本方針なんですが、一つ大きな問題があって、それが不幸の数字、特徴 13 番です。

特徴 13 は、ヴィリジアン運動においてはぼくが絶対君主だ、ということです。ぼくが責任をとるだけじゃなくて、ゼニも刷れば、ばらまきもするつもりです。もしあなたが王様をやりたいなら、どうぞ自由に。ぼくは自分のデザイン原理を公開でオープンにしています。好きに運動を始めて、勝手にコケてください。

ぼくがお願いしたいことはたった一つ。あの唯一の致命的なまねをしなしてくれ、ということです。あのすべての情熱に満ちたネット系ディレタントたちの、致命的な行動はやらないでください。自分にすごくクールなアイデアがあるからといって、熱心なボランティアがサイバー空間からわいて出て、組織化作業をやってくれるとは思わないでください。リストを編集していいアイデアと悪いアイデアを選別するのは、重い死にそうな仕事です。手紙の選別みたいなもので、不満たらたら郵便局員の仕事です。ぼくはそれを、過去3年にわたってデッドメディアプロジェクトでやってきました。自分が何を言ってるかは承知してるんで

す。これは若々しい情熱なんかでどうなるものじゃなくて、陰気な中年の辛抱強さがないとダメです。情熱の熱狂にとらわれた人なら、だれでもファンジンの一号くらいは編集できます。エズラ・パウンドですらその程度はできました。でも4号続けて出せる人はほとんどいない。サイバー空間にいる人は、一人残らずWIRED誌よりクールなアイデアを持っているでしょう。でも、そのアイデアの事実関係をチェックして、ゲラを校正してきちんと期日通りに出せているのは、WIREDだけなんです。

というわけで、やってみることにしましたよ。それも来週から。芸術運動ってやつが持っていないものが最後に一つだけあります。それがぼくの、ラッキーナンバー特徴14。芸術運動には、ベータ版のプレリリースがないんです。だからこそ、ぼくはベータリリースをやります。本当に熱狂してる連中は、そのまま出荷しちゃうんですね。ぼくたちの初のパイロットプロジェクト、初の公式公開は、2000年1月3日時点のヴィリジアン宣言です。できるだけいっぱいクールなアイデアを集めて選り分けて、想像力の先鋭化を通じてスクリーン上に新世界を構築します。それはSF的な世界創造行為ですが、こんどはそれを、自分の住む世界でやろうというわけです。何がしたいかということ、もう一度世界の足をきちんと地につけようってことです。期限は1月3日まで。もしそれをとりまとめて出荷できなければ、これはヴェーパーウェア。そんなものは起きなかった。ぼくたちみんな、すべて否定します。だれも気付かないですむ。

もしあなたがご賛同いただけるなら、電子メールを送ってください。

ご静聴ありがとうございます。

Bruce Sterling

bruces@well.com

【あとがき 1】

ちなみに"Viridian Design"を選んだ理由は三島さんによると
(MLより)

暦の上での21世紀が始まるまでに文化的21世紀がやってくることを予見したこと。未来ブームは2000年だったですね。古から復活し21世紀的価値観となったコミュニティに関する言及があること。

(主にアメリカにとって)新しい資本主義の提言でもあること。「環境に配慮せよ」というのは、自由の国アメリカにとっては大きな変化になるでしょう(バブル崩壊後、日本がアメリカ化しようとながき続けていたのと比較すると面白くないですか)。

歴史観があること。ベル・エポックとの比較はヨタな部分もありますが、技術革新が時代を変えること。時代の変化はデザインに真っ先に反映されるという主張にぼくは説得力を感じます。

思い起こせば、1980年代の環境にやさしい風「アースカラー」ブームは技術革新が伴っていませんでしたので鬱だったなあ。

CO2吐き出しまくりの贅沢国の環境ムーブメントであること。ヴィリジアンは、環境に優しく、かつ贅沢な暮らしを実現しようとしているようです。ゆえにデザインが大切ってことではないでしょうか。同じCO2排出量の製品でもカッコいいほうが贅沢な気がしますからね。日本の「環境にやさしい」ももっとカッコよく、楽しくなればと思います。「海面上昇で多くの島が水没する!」「資源はあとXX年で枯渇する!」「温暖化でマラリアが...」

とかの恐怖訴求で環境問題が語られ続けると、きわめて窮屈な社会ができちゃうと思うんですよ。環境に優しく、豊かさが感じられる社会がいいなあと思って、柔らかめの文書を選んでみました。

非常に虫のいい話なんですが、準備段階から翻訳の分散処理の仕組みをどなたかが開発してくださると考えていました。テスト用に手ごろなサイズの文書を選んだということもあります。重みのある『共産党宣言』でテストするより、軽いタッチの『ヴィリジアン・デザイン』でテストしたほうがリスクが少なくないですか? > 吉峯さん

ぼく的な理由。三島がブルース・スターリングのほのかなファンであること(気になる作家っていう程度です)。

(どうせRC1ヴァージョンだからこの程度でいいでしょ。書き直してもらえれば幸いです)

【あとがき 2】

さて、^{ほんやく} 翻訳 ^{けいじばん} 掲示板 (^{よびかた} この呼び方があんまりピンとこない ^{めいしょう} ので、^{ぼしゅう} 名称を募集しよう) がどんなものかはわかってくれたと思う。ようするに ^{たいやく} 対訳形式の ^{ぶんしょ} 文書を表示して ^{ひょうじ} 段落ごとに ^{だんらく} コメントがつけられる、それだけのものだ (さらにいろいろと ^{きのう} 機能をつけたけど、^{えだは} だいたい ^{かんたん} は枝葉だ)。そして、これはものすごく簡単にできているんだ。「^{きかい} 機械 ^{ほんやく} 翻訳をみんなでいじくりましょう」といってプロジェクト「^{すぎた} メカ ^{げんぱく} 杉田玄白」というものを、^{みしま} 三島 ^{たちあ} さんが立ち上げたのをみて、^{まえ} 前から ^{かんが} 考えていた ^{ほんとう} アイデア (^{じぶん} 本当は自分でやっていた『^{きょうさんとうせんげん} 共産党宣言』に使うつもりだった) を ^{じっこう} 実行に移すいい ^{きかい} 機会だと思ってさくっと作ったんだ。たんに、^{おも} 既存の ^{つく} 一行 ^{きそん} レス ^{いちぎょう} 掲示板の ^{ひょうじけんすう} 表示件数を ^{けん} 100 件にして、^{だんらく} 段落を ^{ひと} 一つの ^{きじ} 記事として ^{とうこう} 投稿して (^{じっさい} 実際には ^{へんしゅう} データファイル ^{きじ} をエディタの ^{とうこう} マクロで ^{編集})、^{きじ} 記事の ^{とうこう} 投稿 ^{きのう} 機能を ^{ころ} 殺しただけ。

そしてこんな ^{かんたん} 簡単な ^{いちしゅうかん} ブツがたった一週間 ^{はつき} やそこらでなかなかの ^{はつき} ポテンシャルを ^{はつき} 発揮している。

(どうせ RC1 ヴァージョンなのでここまででいいでしょ)

【あとがき 3】

PDF ^{ばん} 版 ^{つく} を作った人の ^{ひと} 権限 ^{けんげん} として ^{なに} 何か ^か 書 ^{おも} こうと思 ^{おも} ってます。ここには RC1 ヴァージョンだから ^か 書く ^{ひつよう} 必要 ^か は ^か ない ^か でしょ。書 ^か くな ^か ってい ^か われる ^か かも ^か しい ^か ない ^か し。

2001.08.22